県都大分のまちづくりの方向性

にぎわいづくりのためのターゲット

増加する高齢者
●特に郊外で増加する買物難民
大分市内高齢者：1990年　4万人→2010年　10万人→2030年　15万人（DKK推計）

駅ビルに集まる家族連れ・若者
●子どもと若い女性がターゲット（⇨両親と若い男性も）

これまでまちなかに用事がなかった市民層
●都心部における買物・仕事以外の新しい活動スタイル

ターゲットを獲得するための、まちづくりの方向性

交通まちづくり（集約型都市＝Compact City）
●公共交通で郊外から容易にアクセス
●まちなかのバリアフリー（徒歩・公共交通）
●子どもを連れて安心・安全に回遊できる街並み
●市民の文化活動、コミュニティ活動の舞台を提供

アートまちづくり（創造都市＝Creative City）

顔づくり
●子どもや若い女性が、駅ビルを出てまちなかに行きたいと思える個性・魅力づくり（北口広場～美術館の顔・物語づくり）

人づくり
●まちなかで市民の文化活動、コミュニティ活動を活発化（キャストとなる市民とファンの育成）
●シャワー効果によるまちなか消費の拡大

創造都市の「人づくり」

コミュニティ・デザインの重要性 （参考：山崎亮 『コミュニティ・デザイン』）

- 市民活動の深化の中で、テーマ型コミュニティが増加
  県内NPO 777団体、大分市内NPO 266団体（大分県NPO情報バンク「おんぽ」登録団体ベース）
- 現状では、こうしたコミュニティの活動とまちなかの関係は薄いが、活動をまちなかの公共空間（中央通り、商店街、駅前広場、公園）などで行ってもらうことで、まちなかで「毎日何かをやっている」という状況を創出
- 活動団体のメンバーと、彼らが呼び寄せる人々がまちなかを訪れることで、にぎわいが生まれ、消費活動（飲食物販）が派生（シャワー効果）

にぎわいづくりの拠点としての県立美術館

- 特に、中心市街地に県立美術館が整備され、iichiko総合文化センターと連結したアート・コンプレックスが生まれることを踏まえれば、さまざまなかたちのアート・プロジェクトを美術館や文化センターの中から外のまちなかへと拡げていく活動が重要
- 2012年5月には竹町に「県立美術館まちなか支局」が開設、まちなかとの化学反応によるにぎわいづくりへの貢献を期待

顔づくりの事例：マシン・ド・リル（フランス　ナント）

- ジャンマルク・エロー市長（現・フランス首相）がアート・文化による都市再生を実行、疲弊したナント（人口28万人）が「フランスで最も住みたい都市」へ
- 都心部の中洲にある旧工場地帯（イル・ド・ナント）をクリエイティブ産業・教育やアーティストの拠点として再生
- アーティスト集団ラ・マシンのギャラリー、アトリエからなる集客施設「マシン・ド・リル（島の機械たち）」がナント再生のシンボルに

都心の工場跡が
夢とアートを創る
工場へと再生

お客を乗せて広場をのし歩く全高12mの「巨象（グラン・エレファン）」

建設中の「海中世界のメリーゴーラウンド」も全高26mとインパクト大

顔づくりの事例：ビルバオ・グッゲンハイム美術館（スペイン　ビルバオ）

- 衰退したビルバオ（人口35万人）を美術館により活性化
- 1997年開館、来館者数96万人/年
- フランク・O・ゲーリー設計の個性的美術館建築に加えて、屋外の大型アート作品が街の新たな顔に

カタツムリ？　UFO？　いいえ、「ビルバオ・グッゲンハイム美術館」です

美術館入口にはジェフ・クーンズの巨大彫刻 「パピー（子犬）」が鎮座

創造都市の「顔づくり」

顔づくりのコンセプト

- 南蛮文化＝異文化を積極的に吸収・融合し自らの文化を創造すること
  →小藩分立の江戸時代における文化的多様性、新産都以来の産業集積も同根
  →それならば「現代」、さらには「未来」の南蛮文化もあるはず。それは何だろう？
- 大友氏館跡（顕徳・上野）を擁する駅南が「歴史」の回廊とすれば、駅ビルがゲートとなる駅北は「未来」の回廊と位置づけてはどうか
  →未来を担う子どもたちにとって、多様な考え方と出会い創造性が喚起される街
  →駅ビルと県立美術館をつなぐ線上に、芸術性豊かで文化の薫るまちづくりを促進させ、過去を学び現代を見つめ、創造性が喚起される仕掛けを

大分市＝多様な文化と出会う町

子連れの家族
をまちなかに
誘うきっかけに

大分市中心街のコンセプト＝想像し創造する森としての街

森というイメージ　＝　森を奥に奥に彷徨えば、しめった大地を感じ、空気の美味しさに気づくでしょう。遠くで鳥の鳴き声が聞こえます。もしかしたら、この森にはまだ見ぬ生物が暮らしているかもしれません。
イメージワード　＝　レトロ、鎮守の森、遊具、ブリキ、あちこちに眠る不思議な生き物、物語を探す喜び、宝地図、写真を撮りたくなる仕掛け

創造都市の「顔づくり」

顔づくりの概要

JR大分駅前広場　大分市中心市街地と外を繋ぐインターフェース。物語の始まり

- ランドマークとなる大樹型のオブジェ
- 人々の傘となり、日の光が柔らかく大地に色とりどりの影を落とす
- レトロな機械仕掛けの大時計からは、街全体に向けて時を告げる美しい鐘の音を響かせる

中心市街地　物語と出会う場。街を能動的に楽しむ、発見する。想像力の喚起

- 大分市中心市街地のオリジナルストーリーをつくり、そのシナリオをもとに全体をプロデュース
- さまざまな場所にレトロなオブジェを設置（街灯やベンチ、車止めとしても機能）。それらのオブジェを探し発見する楽しみ(「森の中の小さな冒険」「夏休みの昆虫採集」のようなイメージ)

大分県立美術館　未来が生まれる創造の場

人づくりとの
連携が鍵

- 県立美術館のシンボルとなる作品を屋外に設置、体験型作品を屋内に
- 美術館と街をつなぐ仕掛けを恒常的に行う（ワークショップで作成したオブジェをまちなかに展示）

街＝物語。街を歩くことで物語と出会う、物語が生まれる

「顔づくり」のイメージ

交通まちづくりの事例：欧州における公共交通重視のまちづくり

- 欧米では、1970年代に交通政策が転機を迎え、公共交通重視へと方向転換
- ドイツのフライブルクでは、1972年頃に中心市街地をトランジットモール（公共交通・歩行者専用空間）に
- 路面電車が70都市から3都市まで減少したフランスでは、ナントのLRT（新型路面電車）導入（1985年）を契機に各地で路面電車が復権
- 1960年代から路線廃止が相次いだ日本（別大電車1972年廃止）に四半世紀ほど先行した動き

ドイツの「環境首都」 フライブルク（22万人）のLRT

フランス　ストラスブール（27万人）のユーロトラム

フランス　ボルドー（23万人）のLRTには架線がない

フランスの中小都市ミュールーズ（11万人）でもLRT導入

交通まちづくりの事例：多面的な交通政策（フランス　ナント）

LRT

バス専用道路を走るBRT（バス・ラピッド・トランジット）

「LRTありき」ではなく大分の実態を踏まえた対応が不可欠

郊外のＰ＆R駐車場

レンタサイクル・システム

交通まちづくりの事例：欧州の街並みを走るミニトレイン

- 欧州の各都市で、ミニトレインがまちなかを走行（ナント、パリ、ストラスブール、ボルドー、サンテミリオン、ボーヌ、ビアリッツ、サン・セバスチャンなど）

フランス　ナントのミニトレイン

お客さんを乗せて
市街地を悠々と走行

交通まちづくり

都心部商業における公共交通利用客の重要性

- 都心来街者の利用交通機関：公共交通4割（バス23%、JR15%）、徒歩・自転車3割、クルマ3割（クルマ約100%の郊外型大規模SCと比較した都心部の強み）
- 郊外の高齢化に伴い公共交通の顧客層は潜在的に拡大
- 駅ビルに来た家族層を商店街まで呼びこむには、子ども連れでも安心して歩ける街並みが不可欠

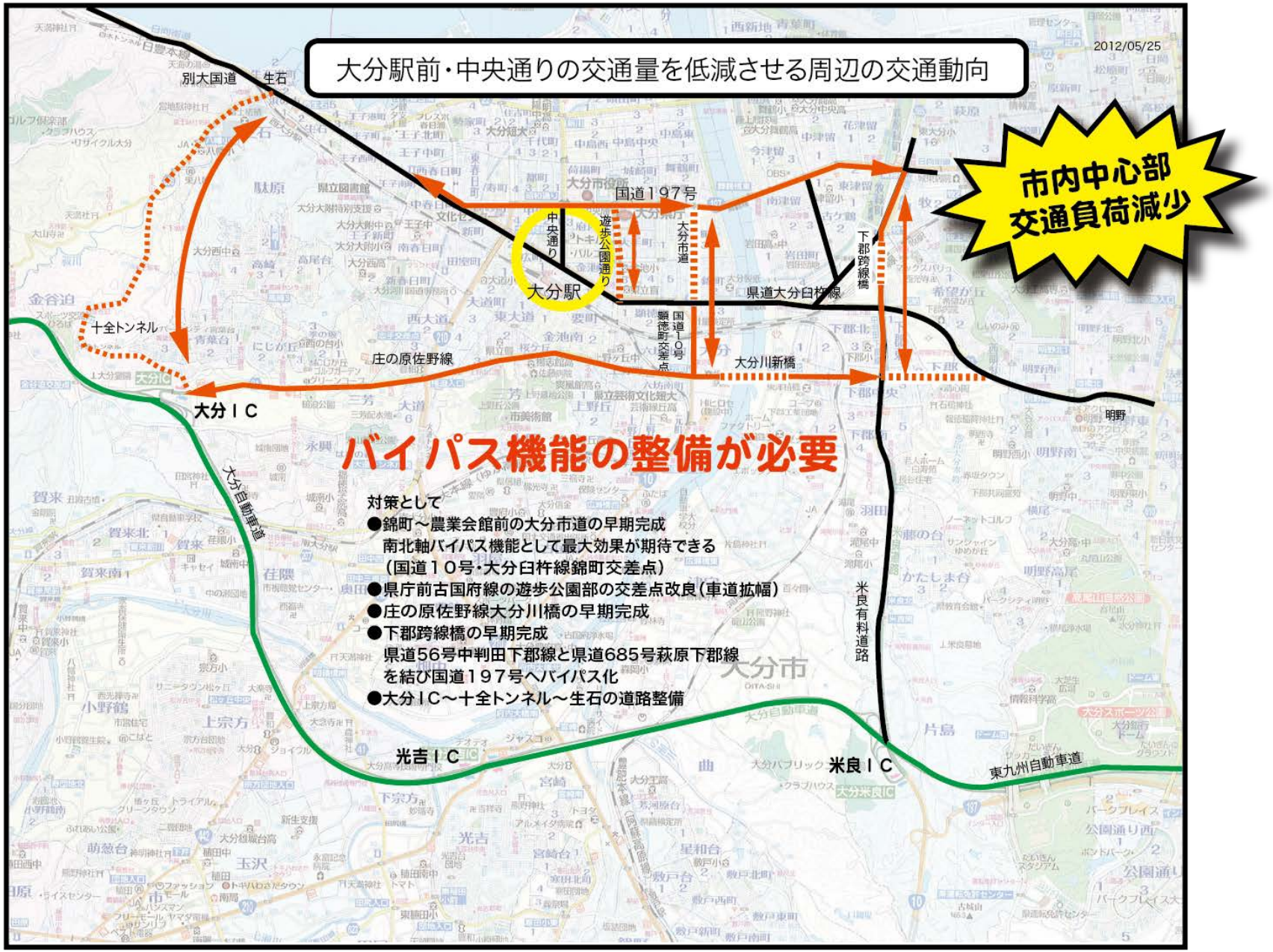
交通まちづくりの目標

- 3核1モール（駅ビル、既存大型店、県立美術館）の個性的、魅力的なまちなみを回遊
- 公共交通で郊外～都心部や、都心エリア内を容易に移動
- 都心部はバリアフリーで歩いて移動しやすい

目標実現のためには

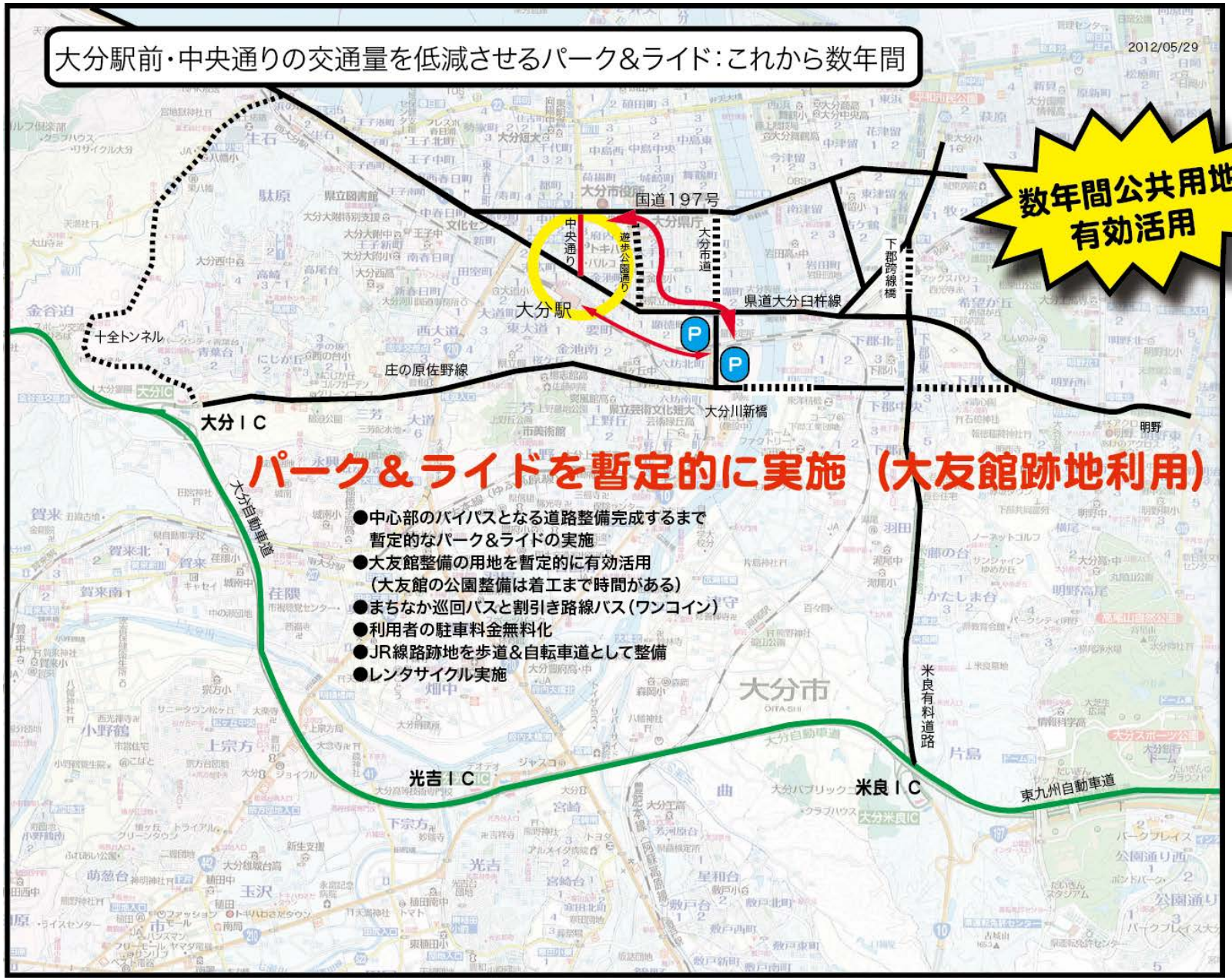
- 東西南から駅ビルに流入するクルマに対して、北側（中央通り）だけは公共交通優先に
- 国道10号の南北、中央通りの東西のバリアをなくし、歩行者にやさしい空間を実現
- 周辺交通体系の整備、P＆Rや都心部のR駐車場の再配置とセットで考えながら・・・

最終的には中央通りをトランジットモールに


大分駅前・中央通りの交通量を低減させる周辺の交通動向
2012/05/25
別大国道
生石
国道197号
中央通り
遊歩公園通り
大分市道
下郡跨線橋
県道大分臼杵線
大分駅
国道10号
顕徳町交差点
十全トンネル
庄の原佐野線
大分川新橋
大分ＩＣ
市内中心部
交通負荷減少
バイパス機能の整備が必要
対策として
●錦町～農業会館前の大分市道の早期完成
南北軸バイパス機能として最大効果が期待できる
（国道１０号・大分臼杵線錦町交差点）
●県庁前古国府線の遊歩公園部の交差点改良（車道拡幅）
●庄の原佐野線大分川橋の早期完成
●下郡跨線橋の早期完成
県道56号中判田下郡線と県道685号萩原下郡線
を結び国道１９７号へバイパス化
●大分ＩＣ～十全トンネル～生石の道路整備
大分自動車道
米良有料道路
大分市
光吉ＩＣ
米良ＩＣ
東九州自動車道
明野

大分駅前・中央通りの交通量を低減させるパーク＆ライド：これから数年間

2012/05/29



パーク＆ライドを暫定的に実施（大友館跡地利用）

- ●中心部のバイパスとなる道路整備完成するまで
  暫定的なパーク＆ライドの実施
- ●大友館整備の用地を暫定的に有効活用
  （大友館の公園整備は着工まで時間がある）
- ●まちなか巡回バスと割引き路線バス（ワンコイン）
- ●利用者の駐車料金無料化
- ●JR線路跡地を歩道＆自転車道として整備
- ●レンタサイクル実施

- 今回の意見交換会で使用したバーチャルリアリティ（VR）のソフトは、以下の大分経済同友会ホームページから入手できます。
- 同友会ホームページにはこの他にも、創造都市や交通まちづくりに関する提言・レポートが多数アップされています。
- 皆さまが今後の大分のまちづくりを考えていくうえで、ご活用いただければ幸いです。

大分経済同友会

http://www.oita-doyukai.jp/